慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	内山秀夫教授略歴；主要著作目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1994
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.67, No.12 (1994. 12) ,p.431- 444
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	内山秀夫教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19941228-0431

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

内山秀夫 教授 略歴

一九三〇年（昭和 五 年） 東京市に生まれる。
一九五三年（昭和二八年） 慶應義塾大学経済学部卒業。
慶應義塾大学大学院経済学研究科中退後、
一九五八年（昭和三三年） 慶應義塾大学法学部政治学科卒業。
慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程進学、博士課程を経て、
一九六一年（昭和三六年） 慶應義塾大学法学部副手就任。
以後助手、専任講師、助教授を経て、
一九七三年（昭和四八年） 慶應義塾大学法学部教授就任。
学生部大学生活懇談会委員長など歴任し、
一九八三年（昭和五八年） 慶應義塾福澤研究センター創設とともに、同センター副所長。
一九八八年（昭和六三年） 慶應義塾福澤研究センター所長就任。
一九九四年（平成 六 年） 三月末、慶應義塾を選択定年し、四月一日をもって、新設の新潟国際情報大学学長に就任。

なお、この間一九五九年から六〇年にかけて、アメリカ合衆国連邦議会研究員（コングレショナル・フェロー）として、ワシントンに滞在。また一九六九年には文部省派遣教官として琉球大学にて集中講義を行なう。本塾法学部では比較政治を講じ、さらに非常勤講師としては、とりわけ立教大学法学部との縁が深い。日本政治学会の理事を長く勤め、また国連大学のグローバル・セミナーの運営にも永年携わる。そして、この一九九四年四月に発足した新潟国際情報大学の設立準備のため、一九九〇年五月よりその学長予定者としての職務を遂行する。

内山秀夫 教授 著作目録

一、編著書

『現代社会と政治体系』（共編著）　時潮社　一九七〇年
『政治発展の理論と構造』　未来社　一九七二年
『第三世界と現代政治学』　れんが書房　一九七四年
『現代政治学の基礎知識』（共編著）　有斐閣　一九七五年
『政治学を学ぶ』（共編著）　有斐閣　一九七六年
『デモクラシーの構造』（共編著）　日本放送出版協会　一九七六年
『政治思想史の基礎知識』（共編著）　有斐閣　一九七七年
『政治文化と政治変動』　早稲田大学出版部　一九七七年
『政治学における現代』　三一書房　一九七九年
『政治における理想と現実』　三一書房　一九八〇年
『政治学への発想』（共著）　三一書房　一九八〇年
『民族の基層』　三嶺書房　一九八三年
『国際人の条件』（編著）　三嶺書房　一九八四年
『一五〇年目の福澤諭吉』（共編著）　有斐閣　一九八五年
『昭和同時代を生きる』（共編著）　有斐閣　一九八六年
『講座政治学』全五巻（共編著）　三嶺書房　一九八六年
『日本の政治環境』　三嶺書房　一九八八年
『比較政治考』　三嶺書房　一九九〇年
『政治的なものの今』（編著）　三嶺書房　一九九一年

『私立の立場から』　日本経済評論社　一九九四年

二、翻訳

S・M・リプセット著『政治のなかの人間』　東京創元新社　一九六三年
B・E・ブラウン著『比較政治学の新動向』　慶應通信　一九六七年
D・E・アプター著『近代化の政治学』上下　未来社　一九六八年
C・E・ブラック著　『近代化のダイナミックス』（共訳）　慶應通信　一九六八年
S・M・リプセット編『学生と政治』（共訳）　未来社　一九六九年
S・N・アイゼンスタット著『近代化の挫折』（共訳）　慶應通信　一九六九年
I・デ・ソラ・プール編『現代政治学の思想と方法』（共訳）　勁草書房　一九七〇年
R・A・ダール著『民主主義理論の基礎』　未来社　一九七〇年
F・ノイマン他著『政治権力と人間の自由』（共訳）　河出書房新社　一九七一年
S・M・リプセット著『国民形成の歴史社会学』（共訳）　未来社　一九七一年
E・E・シャットシュナイダー著『半主権人民』　而立書房　一九七二年
B・クリック著『現代政治学の系譜』（共訳）　時潮社　一九七三年
H・ユーロー著『行動政治学の基礎』　東海大学出版会　一九七五年
J・オールマン著『創造の政治学』（共訳）　而立書房　一九七六年
L・W・ミルブレイス著『政治参加の心理と行動』　早稲田大学出版部　一九七六年
R・T・ホルト著『比較政治の方法』（共訳）　勁草書房　一九七六年
W・J・M・マッケンジー著『政治と社会科学』（共訳）　未来社　一九七七年
クレスピー、マイノウグ編『現代の政治哲学者』（共訳）　南窓社　一九七七年
S・ハンチントン著『変革期社会の政治秩序』上下　サイマル出版　一九七七年

F・ノイマン他著『民主主義と権威主義国家』（共訳）　河出書房新社　一九七七年
（なお同書は一九七一年刊行のF・ノイマン他著『政治権力と人間の自由』を改題したもの。）
バーリン、ヒューズ、ピレンヌ著『歴史における科学とは何か』　三一書房　一九七八年
ダール、タフティ著『規模とデモクラシー』　慶應通信　一九七九年
A・レイプハルト著『多元社会のデモクラシー』　三一書房　一九七九年
D・R・シーガル著『デモクラシーの政治社会学』（監訳）　早稲田大学出版部　一九八〇年
G・A・アーモンド著『現代政治学と歴史意識』（共訳）　勁草書房　一九八二年
J・リンツ著『民主体制の崩壊』　岩波書店　一九八二年
ハリソン著『プルーラリズムとコーポラティズム』　勁草書房　一九八三年
グレーザー、モイニハン編『民族とアイデンティティ』　三嶺書房　一九八四年
マックファーソン他著『国家はどこへゆくのか』（共訳）　御茶の水書房　一九八四年
C・ベイ著『解放の政治学』（共訳）　岩波書店　一九八七年
R・A・ダール著『経済デモクラシー序説』　三嶺書房　一九八八年
J・ロスチャイルド著『エスノポリティクス』　三省堂　一九八九年
S・N・アイゼンスタット著『文明としてのヨーロッパ』　刀水書房　一九九一年

三、法学研究・論文

「現代政治と利益集団（一）――その理論的考察――」　第三十五巻第九号　一九六二年
「現代政治と利益集団（二、完）――その理論的考察――」　第三十五巻第十号　一九六二年
「政治の行動論的研究――その展開と問題――」　第三十七巻第二号　一九六四年
「政治的近代化の理論と問題」　第三十七巻第十一号　一九六四年
「政治発展の概念とその分析方法」　第三十九巻第四号　一九六六年

「新興諸国における官僚制の研究」 第四十巻第二号 一九六七年
「政治文化概念の成立と展開」 第四十三巻第一号 一九七〇年
「政治における発展と統合」 第四十四巻第三号 一九七一年
「参加民主主義論序説」 第四十五巻第八号 一九七二年
「政治科学批判への一視角」 第四十九巻第九号 一九七六年
「政治学における行動論以後」 第五十巻第十二号 一九七七年
「文化政治論への構想」 第五十二巻第九号 一九七九年
「民族再考——エスニシティの政治学序説」 第五十七巻第一号 一九八四年
「政治社会の構造変化——インタレスト社会からニーズ社会へ——」 第五十八巻第二号 一九八五年
「ネガティブパラダイムとしての政治学——一つの政治学論」 第六十一巻第五号 一九八八年
「森戸事件と黎明運動」 第六十三巻第一号 一九九〇年

法学研究・書評

R・C・マクリディス「比較分析における利益集団」 第三十五巻第二号 一九六二年
R・C・マクリディス、B・E・ブラウン共編『比較政治学論文集』 第三十五巻第七号 一九六二年
N・リーマー著『民主主義理論の復活』 第三十六巻第二号 一九六三年
B・E・ブラウン著『比較政治学の新方向』 第三十六巻第五号 一九六三年
H・エクシュタイン著『安定したデモクラシーの一理論』 第三十六巻第九号 一九六三年
C・ギャッ編『古い社会と新しい国家』 第三十七巻第五号 一九六四年
カール・W・ドイッチュ、ウィリアム・J・ウォルツ共編『国家建設』 第三十八巻第二号 一九六五年
篠原一、永井陽之助編『現代政治学入門』 第三十八巻第六号 一九六五年
I・スワードロウ編『開発行政』 第三十九巻第五号 一九六六年

K・フォン・ボリス編『新興諸国』　第三十九巻第八号　一九六六年
M・ジャノヴィッツ著『新興諸国の政治発展における軍隊』　第四十巻第四号　一九六七年
H・V・ワイズマン著『政治体系』［連名］　第四十巻第七号　一九六七年
R・E・ジョーンズ著『政治の機能分析』　第四十一巻第四号　一九六八年
山川雄巳著『政治体系理論』　第四十一巻第九号　一九六八年
白鳥令著『政治発展論』　第四十二巻第一号　一九六九年
谷川栄彦著『東南アジア民族解放運動史』　第四十二巻第七号　一九六九年
L・W・パイ、S・ヴァーバ共編『政治文化と政治発展』　第四十三巻第七号　一九七〇年
秋元律郎著『現代都市の権力構造』　第四十四巻第六号　一九七一年
中村義知著『現代の政治――その論理と構造――』　第四十四巻第十一号　一九七一年
R・J・プランジャー著『現代政治における権力と参加』、G・シャープ著『武器なき市民の抵抗』　第四十五巻第十一号　一九七二年
稲上毅著『現代社会学と歴史意識』　第四十七巻第七号　一九七四年
秋元律郎著『政治社会学――現代社会における権力と参加』　第四十七巻第十号　一九七四年
H・D・ダンカン著『シンボルと社会』　第四十九巻第六号　一九七六年
篠原一著『市民参加』　第五十巻第八号　一九七七年
J・R・ラベッツ著『批判的科学――産業化科学の批判のために』　第五十一巻第八号　一九七八年
石田雄著『現代政治の組織と象徴――戦後史への政治学的接近――』　第五十二巻第二号　一九七九年
今永清二著『福沢諭吉の思想形成』　第五十二巻第八号　一九七九年
坂田稔著『ユースカルチュア史――若者文化と若者意識――』　第五十三巻第三号　一九八〇年
渡辺京二著『日本コミューン主義の系譜』　第五十四巻第二号　一九八一年
野村浩一著『近代日本の中国認識』　第五十四巻第十二号　一九八一年

石田雄著『「周辺から」の思考』　第五十五巻第二号　一九八二年
綾部恒雄編『アメリカ民族文化の研究――エスニシティとアイデンティティ』　第五十六巻第六号　一九八三年
金石範著『「在日」の思想』　第五十六巻第十号　一九八三年
森幹郎著『政策視点の老年学』、『政策老年学』　第五十七巻第十一号　一九八四年
篠原一著『ライブリー・ポリティクス――生活主体の新しい政治スタイルを求めて』　第五十九巻第三号　一九八六年
坂口吉雄著『天皇親政――明治期の天皇観』　第六十二巻第三号　一九八九年

法学研究・翻訳

曹瑛煥「分断国家と再統一問題――政策形成にたいする理論的有意性をもとめて――」　第四十四巻第八号　一九七一年
A・レイプハルト「南アフリカ多元社会にたいする選択肢としての連邦・連合・多極共存」　第五十三巻第五号　一九八〇年
ヤニス・キナス「多元主義と《南北》体制」　第五十五巻第三号　一九八二年
H・J・ウィーアルダ「非自国中心主義の発展理論を求めて――第三世界からのもう一つの構想――」　第五十五巻第九号　一九八二年
クリスチャン・ベイ「災厄としての自由――西欧世界における自由主義的個人主義の場合」　第六十一巻第六号　一九八八年

法学研究・資料

『政治体制』論の展開――G・A・アーモンドの論文をめぐって」　第三十九巻第一号　一九六六年
「政治体系分類論と発展弁証法――F・W・リッグス論文をめぐって――」　第四十四巻第四号　一九七一年
「アメリカ政治学会年次大会提出論文目録　一九五六年―一九六八年」　第四十九巻第十二号　一九七六年
〔連名〕
D・ジョン・グロウブ「人種―民族論争――二つの理論的アプローチの国際分析」　第五十七巻第六号　一九八四年

四、法学研究以外・論文

「新興諸国における政治と軍部」　慶應義塾大学地域研究グループ著『変動期における軍部と軍隊』(慶應通信)　一九六八年
「都市のデモクラシーと革新の論理」　『潮』別冊「日本の将来」秋季号　一九六九年
「『沖縄』を考える」　『週刊読書人』二月九日　一九七〇年
「現代政治における変動の意義について」　『琉大法学』第一一号　一九七〇年
「現代政治学の成立と展開」　I・デ・ソラ・プール編『現代政治学の思想と方法』(勁草書房)　一九七〇年
「政治文化と政治変動」　共編著『現代社会と政治体系』(時潮社)　一九七〇年
「アメリカ社会学は状況の現象化が得意」　『月刊対話』四月号　一九七一年
「人間の可能性としての民主主義」　『経済論壇』一七巻九月号　一九七一年
「三権分立の神話と可能性」　『三色旗』二八二号　一九七一年
「政治学の学び方」　『三色旗』二八五号　一九七一年
「文化と文明の論理」　『潮』別冊「日本の将来」冬季号　一九七一年
「現代政治学における比較研究の展開」　一九七一年度年報政治学『比較政治分析とその方法』(岩波書店)　一九七二年
「現代市民の政治理論を求めて」　『市民』七号　一九七二年
「返ってくる沖縄、返ってこない沖縄人」　『週刊読書人』五月一五日　一九七二年
「動員と参加の政治力学」　『三色旗』二九四号　一九七二年
「変転する政治学の行くえ」　『朝日ジャーナル』八月三一日　一九七三年
「政府組織と市民運動」　『世界政経』八月号　一九七三年
「軍事独裁政権成立のメカニズム」　『アジア』一二月号　一九七三年
「政治変動の現代理論を求めて」　未発表　一九七三年
「革新政治の基本構造」　『公明』一月号　一九七四年
「政策の革新と住民運動の可能性」　『都市問題』六五巻六号　一九七四年

「民主主義と市民運動」　『新日本』一〇月号　一九七四年
「原理としての民主主義の再生と創造」　『公明』一〇月号　一九七四年
「参加と動員の政治動学」　市井三郎、鶴見和子編『思想の冒険』（筑摩書房）　一九七四年
「社会主義体制の比較研究」　徳田徳之、辻村明編『中ソ社会主義の政治動態』（アジア経済研究所）　一九七四年
「参加政治の基本構造」　『世界政経』四月号　一九七五年
「戦後デモクラシーの持続と変質」　『世界政経』九月号　一九七五年
「〈政治神話〉は崩壊した」　『月刊エコノミスト』一一月号　一九七五年
「政治参加と現代政治学」　一九七五年度年報政治学『政治参加の理論と実際』（岩波書店）　一九七六年
「ミニマム文化の役割」　『世界政経』二月号　一九七六年
「『人間』の存続のための『人間』の協同」　『週刊読書人』四月一二日　一九七六年
「議会制民主主義を生かすもの」　『公明』五月号　一九七六年
「日常性の政治学と水俣」　『公明新聞』一〇月二日、五日　一九七六年
「政治参加の現代的基点」　共編著『デモクラシーの構造』（日本放送出版協会）　一九七六年
「水俣と私」　『西日本新聞』二月二一日　一九七七年
「政治的想像力をどうつちかうか」　『思想の科学』一二月号　一九七七年
「都市における市民運動」　白鳥令編『保守体制』下巻（東洋経済新報社）　一九七七年
「日本型革新に可能性はあるか」　『思想の科学』四月号　一九七八年
「水俣へ、水俣から」　『思想の科学』六月号　一九七八年
「政治における理想と現実」　『公明』八月号　一九七八年
「戦後史における進歩と反動」　『世界』一月号　一九七九年
「国民分断のなかでの政治の回生」　『世界』一〇月号　一九七九年
「〝ひっぺがし人間〟のすすめ」　『朝日ジャーナル』三月二五日　一九八〇年

「国家の時代と戦後民主主義の転生」　『朝日ジャーナル』五月一六日　一九八〇年
「未完の革命としての戦後民主主義」　『世界』六月号　一九八〇年
「〝ひと〟でありつづけるために」　『図書新聞』九月六日　一九八〇年
「『企業の社会的責任』の政治学的意味」　『法学セミナー』増刊「現代の企業」　一九八〇年
「危機に対応する民主の論脈」　『世界』一月号　一九八一年
「水俣・下下戦記」　『図書新聞』一月一七日　一九八一年
「第三世界としてのアジアへ」　『アジア』七月　一九八一年
「〈小さな政府〉の考え方」　『地方自治職員研修』九月　一九八一年
「国家と民主主義の現在」　一九八一年度年報政治学『現代国家の位相と理論』(岩波書店)　一九八一年
「民族の基層」　『世界』一月号　一九八二年
「開発と民主主義は両立可能か」　秋永肇教授古稀記念論集『現代民主主義の諸問題』(御茶の水書房)　一九八二年
「成長政治からの脱却」　『世界』一月号　一九八三年
「現状打破の政治論」　『世界』三月号　一九八三年
「生き方としての日本国憲法」　『書斎の窓』三二二号　一九八三年
「戦後政治の組み替え」　横越英一教授退官記念論集『政治学と現代世界』(御茶の水書房)　一九八三年
「中曽根政権の『囲い込み構造』」　『エコノミスト』三月八日　一九八三年
「靖国『公式化』への政治底流」　『公明』一〇月号　一九八三年
「『父性支配』を断ち切る条件」　『朝日ジャーナル』一〇月二八日　一九八三年
「政治に突きつけられた問題は何か」　『公明』一二月号　一九八三年
「法学オリエンテーション　立法・政治コース」　『法学セミナー』増刊「法学入門」　一九八三年
「社会科学の現在」　『書斎の窓』三三五号　一九八四年
「脱産業社会の政治構造」　『法学セミナー』増刊「これからの日本の政治」　一九八四年

「政治閉塞はどこからきているか」　『公明』一二月号　一九八四年
「中曽根型『協調国家』を糾弾する」　『エコノミスト』一月八日　一九八五年
「福沢諭吉は死んだ、福沢諭吉は生かせるか」　『経済セミナー』三七四号　一九八六年
「人間と社会の学としての再生を」　『三田商学研究』第二九巻第二号　一九八六年
「戦後史にかんする一考察」　『私学公論』七月　一九八六年
「新しい知識人への待望」　『月刊社会党』三七〇号　一九八六年
「自民党国家からの解放」　『月刊社会党』三七六号　一九八六年
「国家は秘密をもてない」　飯岡秀夫、宮本純男編『「近代」とその開削』（清水弘文堂）　一九八七年
「生きるということの意味」　『公明』七月号　一九八七年
「いま、人間の進歩を考える」
「高齢化社会の政治とデモクラシー――その可能性について」　共編著『講座政治学』Ⅲ〈政治過程〉（三嶺書房）　一九八六年
「鈴木梅四郎と『政戦録』について」　慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』第三巻　一九八六年
「世代体験とは何なのか」　共編著『昭和同時代を生きる』　一九八六年
「沖縄　一九八七年夏」　『慶應塾生新聞』一一月二〇日　一九八七年
「沖縄縣費第一回留学生」　慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』第四巻　一九八七年
「何に馴れてしまったのか」　『公明』一月号　一九八八年
「第三の開国が意味するもの」　『私学公論』二月　一九八八年
「戦後日本のテロの系譜」　『思想の科学』七月号　一九八八年
「権力システムと『政治の死』」　『公明』一一月号　一九八八年
「未練たらしい欲張りのはなし」『塾』　一二月　一九八八年
「未然の日本近代――天皇制を手がかりに」　『私学公論』一月　一九八九年

「国家社会大学から人間史的大学へ――新しい課題設定のために」　『私学公論』六月　一九八九年
「すり替えられた『けじめ』と『政治改革』」　『エコノミスト』六月二七日　一九八九年
「私学経営ということ」　『私学公論』八月　一九八九年
「学問・学者・大学」　『私学公論』一〇月　一九八九年
「政治の流れと社会の意識変化」　『新聞研究』四五九号　一九八九年
「情報化の中の文盲たち――現実主義と大学」　『私学公論』一二月　一九八九年
「人間が時代を創ることへの希望」　『私学公論』二月　一九九〇年
「太平洋戦争をめぐって」　『三田学会雑誌』第八二巻特別号Ⅱ　一九九〇年
「福沢先生という人」　『私学公論』四月　一九九〇年
「日本からの起点」　『私学公論』四月　一九九〇年
「憲政一一〇年の日本と日本人」　『三田評論』五月　一九九〇年
「新しい啓蒙の時代へ」　『私学公論』六月　一九九〇年
「自助としての学問」　『私学公論』一二月　一九九〇年
「〝ミニ公衆〟（自決責任もつ大衆）よ、いでよ！」　『エコノミスト』一月二九日　一九九一年
「家族に教育は可能か」　『私学公論』二月　一九九一年
「ソ連革命を目撃して感あり」　『私学公論』九月　一九九一年
「情報と情報社会への疑問、そして教育の課題」　『私学公論』一〇月　一九九一年
「学長マイナス三年」　『私学公論』一一月　一九九一年
「現代世界と政治理論」　『政治的なものの今』（三嶺書房）　一九九一年
「民族現象の現在」　『私学公論』二月　一九九二年
「社会改革としての生涯教育」　『私学公論』三月　一九九二年
「大学を人に近づける――一般教育考――」　『私学公論』六月　一九九二年

「学生は大学文化の創造者」　『私学公論』七月　一九九二年
「大学が地域をもつということ」　『私学公論』一〇月　一九九二年
「『自民党国家』の悲劇」　『エコノミスト』七月二七日　一九九二年
「板倉卓造の初期政治論」　慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』第九巻　一九九二年
「見せかけの多党化　ふえなかった選択肢」　『エコノミスト』七月二七日　一九九三年
「人類史の中の国家――共通感覚の普遍化に向けて――」　『週刊読書人』九月一三日　一九九三年
「五五年体制の終焉」　『新聞研究』五〇六号　一九九三年

法学研究以外・翻訳

D・E・アプター「イデオロギーと不満」慶應義塾大学法学部地域研究グループ訳、D・E・アプター編『イデオロギーと現代政治』（慶應通信）　一九七五年
ランドルフ・S・ダビッド「開発独裁と民衆運動――フィリピンの経験について」　『エコノミスト』八月七日　一九九四年

法学研究以外・書評

阪谷芳直著『三代の系譜』　『朝日ジャーナル』二月二二日　一九八〇年
東京大学社会科学研究所編『運動と抵抗』上中下　『朝日ジャーナル』六月二〇日　一九八〇年
渡辺京二著『日本コンミューン主義の系譜』　『朝日ジャーナル』一一月二八日　一九八〇年
池田浩士著『闇の文化史――モンタージュ一九二〇年代』　『朝日ジャーナル』三月一三日　一九八一年
馬場伸也著『アイデンティティの国際政治学』、前山隆著『非相続者の精神史』　『朝日ジャーナル』六月一九日　一九八一年
スジャトモコ著『開発と自由――発展途上国の立場から』、R・スタベンハーゲン著『開発と農民社会――ラテンアメリカ社会の構造と変動』　『朝日ジャーナル』七月二四日　一九八一年

前山隆著『移民の日本回帰運動』　『朝日ジャーナル』八月二七日　一九八二年
永井陽之助著『現代と戦略』　『公明』八月号　一九八五年
一九八五年回顧　『週刊読書人』二月二三日　一九八五年
一九八六年回顧　『週刊読書人』二月二二日　一九八六年
杉森久英著『明治天皇』　『週刊読書人』二月二日　一九八七年

法学研究以外・解題

『嗚呼二月二十六日』(鈴木梅四郎著)　慶應義塾福澤研究センター近代日本研究資料(一)　一九八七年
『島田三郎全集』第六巻　龍渓書舎　一九八九年
『黎明講演集』(黎明会)第一巻　龍渓書舎　一九九〇年
『現代社会問題研究』(日本社会学院調査部編)第二五巻　龍渓書舎　一九九三年
『藩閥之将来　附教育之大計』(外山正一著)　慶應義塾福澤研究センター近代日本研究資料(五)　一九九四年

なお、一九八七年以来信濃毎日新聞の「潮流」欄の執筆者であり、現在に至っている。